

■ 中間考査に向けて



5月23日(月)から5月25日(水)まで1学期中間考査が実施されます。3年生にとっては、進路決定につながる大事な考査になります。しっかりと準備して臨みましょう。1年生にとっては高校入学後初めての定期考査になります。特に3年生になって推薦で大学等への進学を希望する場合には、評定平均値が大事な要素になります。今から少しずつ積み重ね、3年生になってから後悔しないようにしましょう。当然のことながら、2年生のみなさんもしっかり学習に取り組んで臨むようにしましょう。基礎学力の定着を図ることが進路を決定させていくことになりますので、自覚的に学習に取り組むようにしてください。

■ 3年生アンケートの結果

4月19日(火)1校時のLHRを中心に3年生に進路希望アンケートを実施しました。以下の表は、今年度の3年生166名分の回答をまとめたものになります(※()内は女子の希望者数)。今年度も新型コロナウイルスの影響により、入学試験や入社試験がどのような形で実施されるのか不透明な部分がありますが、希望進路実現に向けて、着実に準備を進めていきましょう。

現時点でのあなたの進路希望は？	希望者数
4年制大学進学(東日本国際大学進学希望を含む)	89名(22名)
短期大学進学(いわき短期大学進学希望を含む)	5名(4名)
専門学校進学	39名(13名)
就職	33名(9名)
その他	0名(0名)

■ 日本学生支援機構奨学金・予約採用の申込みについて

大学、短期大学、専門学校などへの進学を希望している3年生で、日本学生支援機構奨学金の予約採用を希望する者への説明会を5月中に実施する予定です(※日程は決まり次第お伝えします)。詳細は配付する茶封筒の中のでびき等をよくご確認のうえ、お申し込みください。学校担当者の方で、大まかな流れをまとめた文書も配付いたしますので、それに沿って進めていただくとスムーズかと思われます。なお、てびき等を配付する際には、BLENDでもお伝えいたしますのでご注意願います。



■卒業生の合格体験記

3月に本校を卒業した昨年度卒業生の合格体験記です。今回は、北海道教育大学岩見沢校に入学した美濃又叶翔さん、福島県警察に採用された伊東拓哉さんの2名です。ぜひ参考にしてください。ちなみに、北海道教育大学は国立大学です。昨年度、進学コースからは2名の国立大学合格者が出ました（※もう1名は福島大学）。美濃又さんは一般入試で見事合格を勝ち取った他、複数の私立大学にも合格しました。

【合格体験記】 美濃又叶翔さん（昨年度3年3組）

北海道教育大学岩見沢校教育学部芸術・スポーツ文化学科
スポーツ文化専攻スポーツコーチング科学コース入学

私はいわきFCに所属していたため、年間を通して休みがない上に、高校三年の十二月まで試合があったのでどれだけ隙間時間で勉強できるかが重要でした。モチベーションがなかなか上がらず、受験勉強を本格的に開始したのは共通テストまで一年を切った高校二年の二月頃でした。これは正直遅すぎたと思います。

私にはプロサッカー選手になりたいという夢があります。しかしそれは簡単なことではありません。プロサッカー選手になれなかったときにしっかり就職できるようにしたいという考えでこの大学を選びました。

私は一般入試を使って合格しました。国立大学だったので受験科目は五教科六科目と多かったです。理系コースを選択していたので授業でやらなかった古典や現代社会を先生の協力を得て必死に取り組みました。とにかく頭に詰め込みました。一・二年生の頃は共通テストまで遠く感じるとは思いますが、焦ってくると一瞬で時間が過ぎていくように感じるので、早めに受験勉強を始めるのが志望校合格への近道だと思います。

私は共通テストで思うような点数がとれませんでした。これも勉強期間が短かったことから来る自信のなさのせいだったと思います。しかし北海道教育大学は二次試験の配点が高いため、大逆転を信じて出願しました。二次試験の対策を国語の先生や体育の先生にお願いしました。完璧に仕上げ自信を持って二次試験に挑めたことが合格した一つの要因だと思います。今までの人生で一番苦しんだ時期ではありましたが、自分を信じて最後までやり遂げることができると結果もついてくるんだと実感しました。

自信があれば思うように行きます。根拠のある自信を持てるように努力を積み重ねてください。



【合格体験記】 伊東拓哉さん（昨年度3年2組）

福島県警察採用

私は、物心ついた時から警察官という職業に憧れを持っていました。そこから色々な警察官の方と話していくうちに、憧れるだけでなく自分も警察官として働きたい、そう思うようになりました。



しかし、私は警察官として働きたいと思ってから、その夢を叶えるための勉強をするのが少し遅かったと思います。今思うと、遅くとも2年生の3学期くらいからやっておけば、もう少し余裕を持って試験に臨めたかなと思います。

次に警察官の採用試験についてです。警察官の採用試験の中で、社会科学は比較的得意でした。得意な科目は参考書を読むなどして試験に挑みました。逆に苦手な科目は数的処理でした。この科目に関しては、今までやってきた数学などとは問題形式が違っていたので、何を勉強したらいいのか分からなく何もできない状態でした。それでも、放課後などに数学の先生や予備校の講義などを聞いて、克服できるようがんばりました。そのおかげで、本番でもリラックスして試験に臨むことができました。

二次試験では体力検査、適性検査、集団討論、個人面接がありました。体力、適性についてはどうすることもできなかつたので自然体で挑みました。集団討論と面接は警察官採用試験の中で一番配点が高いです。昨年は、例年よりも採用予定人数が少なかつたので、何が何でも点数を取りに行く気持ちでがんばりました。そのために、先生方には遅くまで面接練習に付き合ってくださいました。その結果、一次試験では真ん中くらいの順位でしたが、二次試験の結果を開示で確認したところ、6位という結果で合格することができました。

最後に、「石の上にも三年」という言葉がありますが、まさにこの言葉通りだと思います。何事もすぐに諦めずに目標を持つことにより、その夢は叶うのだと思います。自分もこれから警察学校に行き、数年後に希望の部署に配属になるかは分かりませんが、がんばっていきたいと考えています。

■素晴らしい野球部新入部員！

もう少し紙面を大きく割いて紹介したいところですが、4月6日（水）の夕方、筆者が帰途につく際、入学したばかりの野球部の1年生諸君とすれ違いました。ちょうど、練習に向かっているところだったようですが、寮の少し先のところで、1年5組の砂田基成君、1年6組の織田洪熙君、谷津田純君、山口和志君の4名が路上の大きなゴミを拾って、自転車で学校まで運ぼうとしていました。筆者の方でそのゴミを預かり、翌日処分しましたが、野球部新入部員諸君の行動に感心しました。同時に、そのゴミを捨てたであろう大人と思われる人のことを情けなく思いました。路上等にゴミが落ちていないのが一番ですが、もし見かけたら、先の野球部員たちのように美化に努められるようであってほしいと感じました。素晴らしいと感じた出来事だったので紹介しました。

■何のための人生か？

1月に実施された大学入学共通テストの初日に、東京大学の前で受験生ら3人が高校2年生によって切りつけられるという事件が起きました。この事件を受けて、読売新聞の1月18日付夕刊「よみうり寸評」に掲載されたというコラムを紹介しします（【 】内）。

【悩める高校生、満男が問う。「人間は何のために生きてんのかな」。しばし考えた寅さんのセリフがいい◆「生まれてきてよかったなっと思うことが何べんかあるんじゃない、ね。そのために人間生きてんじゃないのか」。そう言って、励ましの言葉をかける。「お前にもそういう時が来るよ、うん。まあ、がんばれ」◆映画『男はつらいよ 寅次郎物語』の一場面を思い返しつつ思う。「東大医学部をめざしていた」という名古屋市の高校2年生の少年（17）に、悩みを相談できる相手はいなかったのだろうか◆東大の前で大学入学共通テストの受験生ら3人を刺傷した犯行は身勝手と言うしかないが、ただ切っ捨て捨てるわけにもいかない。生まれてきた喜びに気づかせる誰かがいたなら、「成績が上がらず、人を殺して死のうと思った」という供述を聞かずに済んだのかもしれない◆ときに寅さんの言葉を借りてもいい。周囲に目をこらし悩み苦しむ若者を支えたい。孤立の果てに人々を巻き込む凶行の連鎖を、断ち切るためにも。】

コラムの中に出てくる映画『男はつらいよ』を知らない諸君も多いことと思います。「テキ屋（※縁日や盛り場などの人通りの多いところで露店や興行を営む業者のこと）稼業を生業（なりわい）とする『フーテンの寅』こと車寅次郎（くるま・とらじろう）が何かの拍子に故郷の柴又（東京・葛飾区）に戻ってきては、大騒動を起こす人情喜劇で、毎回旅先で出会った『マドンナ』に惚れつつも失恋するか身を引くかして、成就（じょうじゅ）しない。寅次郎の恋愛模様を日本各地の美しい風景を背景に描く」とウィキペディアで紹介されています。文中の満男は、寅次郎の妹さくらの一人息子で、寅次郎から見たら、甥（おい）っ子に当たります。「人間は何のために生きてんのかな」という満男の問いは、柴又に戻ってきたときに受けたものなのでしょう。寅次郎にとっても難しい問いだったのかもしれませんが、これだけは伝えたいとの思いから先の答えが出たのかもしれませんが。

それにしても、この3年ほどの間に、「人生が思うようにいかない」などの理由で、他者を巻き添えにする事件が頻発しているのが気がかりでなりません。寅さんの言う「生まれてきてよかった」という感じ方は人によりけりの部分があるのですが、「小さなことに喜びや幸せ」を感じられるようであってほしいと思います。友だちと毎朝、笑顔で挨拶を交わすとか、本当に些細（ささい）なことに喜びを感じることを積み重ねが私たちの社会をより良い方向に導いてくれるのではないかと考えています。何か失敗したりして思い通りにいかないときには、その都度、自分の足元を見つめてしっかりと反省し、同じ過ちを繰り返さないようにすることが大事です。仮に失敗を繰り返してしまっても、反省する姿勢を忘れなければ、いずれ何らかの良い形になって自分に返ってくるものと筆者は固く信じます。文責：清水聖（進路指導主事）

